



Artist : Jackson Browne
Album Title : "Late For The Sky"
Label : Asylum
Number : WPCR-75081
Date : 1974

ちょっと切ない大人の道を歩き始めた人達をテーマにした1枚

この「レイト・フロム・ザ・スカイ」は1974年に発売されたジャクソン・ブラウンの3枚目のアルバムだ。ジャクソンのアルバムの中では、僕が一番好きなものだ。ヒットした曲はなかったけど、このアルバムに入っている曲のほとんどが名曲といっいいと思う。アルバムに入っている曲のほとんどが名曲といっいいと思う。アルバムはちょっと切ない大人の道を歩き始めた人達、いろんなことを考えだした人達をテーマにしている。恋や自分自身がこの世の中にどんなふうに関係しているか、未来のことも考え始めている。音楽はメランコリーな感じだ。アップテンポの曲もあるが、何かメロディーにも見えないものに向かって問いかけているようなニュアンスがある。子供の頃の無邪気さが消えていくジェネレーション。ちょうど僕もそういう悩みがあった頃だ。僕はこのアルバムをLPとして一枚、CDとして2枚持っている。もちろん素晴らしいアルバムだけど、3枚持っているのは別の理由だ。

いい音楽は何回聴いても、飽きないものだ。今では同じCDを何回聞いてもすり減らないからいいね。コンピューターの中のMP3も同じだ。でもレコードの時代は、聞き過ぎるとどんどん音が悪くなっていった。それは針が溝の中を走っていくから仕方がない。そして、若いときは品質が高いプレイヤーは持っていなかったし、針も高かったので、あまり交換をすることもできなかった。何枚かの聞き過ぎたレコードは買い変えたこともあった。ビーチ・ボーイズの「ペット・サウンズ」、ローリング・ストーンズの「ディッセンバーズ・チルドレン」、ビートルズの「リボルバー」がそうだった。レコードがCDに変わっ

たときは、持っていたレコードをほとんど買い直した。つまり3枚買っているアルバムも少なくないというわけだ。

しかしこの「レイト・フォ・ザ・スカイ」は、レコードを1回、CDを2回も買っている。1974年に発売されたときのレコード盤、そしてCDになった1980年代に一枚。そして最近もう一枚買った。馬鹿げた話だけど、ある日、車を運転しているときにプレイヤーに入れるとかからなかったのでよく見てみると、表面がすごく汚れていることに気づいた。何かベトベトしていたから、ワイパー用に入っている水を使おうと思った。そこで車の窓から手をだして、フロントガラスの外側にCDを置いて水をかけようとした。そして水のボタンを押した瞬間、僕は慌てふためいた。なんとワイパーがCDをつかみながら、動き始めてしまったんだ。僕の目の前にはワイパーと一緒にCDが右から左にフロントガラスをふくスポンジみたい

に動いていた。手で取ろうとしても取れない。何回も左右に動いてしまった。ワイパーのスイッチを止めればよかったのに、夢中でそんなことは考えられなかった。気づいてやっ

とワイパーをとめたときには、CDはもうボロボロ、表面が傷だらけで、透き通って向こう側が見えるようになっていた。車の中は僕一人だけだったけど、大笑いした。自分は馬鹿か、こどもか。

そんなわけで、僕はもう一枚買うことになった。そして今だにこのアルバムを聞くと、僕はまだまだ大人になる途中の旅を続けているんだと思うんだ。 ★

PROFILE ジョージ・カックル◎1956年鎌倉生まれ。日本人で日本舞踊の師匠の母とアメリカ人でヨットマンの父を持ち幼少時代を日本・テキサス・韓国で過ごす。小学3年生でビートルズに開眼。LAで有名なサーフポイントでの初サーフィン体験。この原体験が彼のその後の人生を決定付ける。日本での学生生活の後、憧れのインドをはじめ世界を放浪し、ハワイ経由でサンフランシスコに移り住み18年間波乗り明け暮れた。1995年帰国後、生まれ故郷鎌倉へ音楽マネージメント&制作会社を立ち上げ、日本のミュージックシーンにbabamaniaなどを輩出。音楽プロデューサー、コラムニスト、作詞家(マッドカプセルマーケッツ、阿川泰子など)として、2006年の8月には子供の英語・音楽教育用の本『ウクレレ・マミー・アンド・ミー』を出版。古今東西の音楽と文化と人間臭さをこよなく愛し日本と世界を結ぶ架け橋になりたいと願い、今日もボブ・マーリーを聞きながらサーファーとしても多忙な日々を送っている。現在、インターFM(76.1)毎週日曜日、9:00~13:00 レイジーサンデーを担当。

SHONAN BEACH FM 78.9 STARLIGHT CRUISING Thursday 8-10pm